

そ だ ち の 芽

あたたかなまなざしでこどもを見守る大切さを教えてくれる児童精神科医の佐々木正美先生。子どもが主体の保育、たくさんの愛につつまれ愛されていると感じられるようにという茶屋保育園の思いと重なることが多く、職員も様々な著書を読み、保育を考える上で参考にしています。今回は子どもの「やってみよう」と思う心を見守ることについて、佐々木先生の著書「かわいがり子育て」からご紹介したいと思います。



大人はこれまでの経験から「それをやったら失敗するだろうな…」と予測ができるので、つつい子どもの失敗の芽を摘んでしまいがちです。もちろん、朝の忙しい時間や、余裕のない時は仕方ないのかもしれないですね。

私たち保育士も、「大人の経験値で子どもの経験を止めてしまう、『経験どろぼう』にならないように気をつけよう」といつも意識しています。それでも難しいと感じる瞬間がたくさんあります。

100個予測できる失敗をすべて受け止めてあげることは難しいかもしれませんがほんの少し余裕がある時に、子どもの失敗を見守り、一緒に「次はこうしてみようか」と考えることができるといいですね。



参考文献
『3歳までは思いっきり
甘えさせなさい
かわいがり子育て』
著：佐々木正美

